

# 會務報告

第 29 卷 第 5 號 昭和 18 年 5 月

## 役員會

### 第 2 回常議員會 (昭. 18. 3. 22.)

出席者: 黒河内會長, 内海副會長, 鶴飼常議員外  
9 名, 岡野前會長外 3 名, 中村書記長,  
小野寺庶務主任外 1 名

### 報 告

1. 關西支部役員會議事
2. 北海道支部役員會議事
3. 中國四國支部役員異動
4. 會誌編輯委員會委員依囑
5. 大東亞建設調查委員會委員依囑

### 議 事

1. 日本工學會評議員青木楠男君の後任に瀧淵實烈君を選出
2. 日本工學會大會本會選出委員青木楠男君の後任に瀧淵實烈君を選出
3. 日本工學會大會講演委員會委員に菊池 明君を、庶務委員會委員に中村孫一君を選出
4. 世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會は時局柄自然解消せられたるものと認めらるゝを以て常議員會は之が善處を希望し其の方法に就ては理事會に一任
5. 日産會へ報告すべき發明考案者は今回は會長より非公式に推薦することとせり
6. 戦時下に於て土木學會は何を爲すべきかに就ては爾後引續き検討することとせり
7. 入退會を別記の通り承認

### 第 3 回常議員會 (昭. 18. 4. 5.)

出席者: 黒河内會長, 鈴木, 内海兩副會長, 兼岩常議員外 10 名, 岡野前會長外 3 名, 中村書記長, 小野寺庶務主任外 1 名

### 報 告

1. 關西支部見學會記事

### 議 事

1. 中國四國支部昭和 17 年度收支決算別紙 (省略) の通り承認

2. 大東亞建設調查委員會委員に瀧淵實烈君, 比田正君を依囑

3. 戦時下土木學會に於て何を爲すべきかに就て討議を行ひ次回も引續き検討することとせり

## 總務部記事

### 第 34 回對爆調査委員會 (昭. 18. 3. 18.)

出席者: 釘宮委員長, 奥田委員外 2 名, 小野寺庶務主任

### 協議事項

1. 奥田委員提出資料 3-5-1 都市計畫(ゲラ刷)に對する逐上審議を行ひたり
2. 次回委員會は各委員より可成速に資料の提出を願ひ其のゲラ刷出來上り次第開催することとせり

## 編輯部記事

### 第 4 回會誌編輯委員會 (昭. 18. 4. 7.)

出席者: 五十嵐, 岡本, 須之内, 藤森, 木間, 米屋各委員, 村上編輯主任, 梅津, 内村各囑託

1. 第 29 卷第 3 號登載原稿謝禮決定の件、
2. 原稿審査報告及第 29 卷 6 號登載原稿の決定の件
3. 第 29 卷第 3 號登載論文の討議依頼先決定の件

## 調査部記事

### コンクリート調査委員會 (第 10 回道路舗裝コンクリート小委員會) (昭. 18. 3. 19.)

出席者: 沼田委員長, 吉田委員外 4 名

1. 第三議會案を審議完了
2. 第三議會終了したる原案を無筋コンクリート標準示方書第 3 部道路舗裝 (案) として 5 月會誌に上梓する豫定

## 東亞部記事

大東亞建設調查委員會幹事會 (昭. 18. 3. 30.)

出席者： 青木、鈴木、高野、片平各幹事、小野寺  
庶務主任

協議事項

1. 委員長の後任に關しては鈴木東亞部長に一任することとせり
2. 大東亞建設技術資料（東印度諸島總論）に對する審議を行ひ會誌登載に關しては一應横田總論分擔委員の意見を聴取することとせり
3. 委員に比田正君を、幹事に次の諸君を追加依頼し事業の進捗を圖ることとせり  
新井義輔君、五十嵐醇三君、糸川一郎君、尾之内由紀夫君、杉戸 清君、比田 正君、村上永一君
4. 4月9日講演會を開催することとし講演者並に會場を選定することとせり

關 西 支 部 記 事

第2回役員會（昭.18. 3. 4.）

出席者： 高橋支部長、羽賀商議員外 11 名、松島前支部長外 6 名、大橋前商議員外 2 名、光井幹事外 1 名

報 告

1. 幹事長更迭の件、退任 兵藤直吉君、新任 大鹽政治郎君

議 事

1. 春季見學會開催の件

春季見學會（昭.18. 3. 28.）

日 程 官幣大社多賀神社參拜 醒ヶ井養鱒場見學  
講 演 (1) 琵琶湖の利水問題に就て

高橋嘉一郎君

(2) 縣營養鱒事業に就て 奥野忠雄君

參加者 50 名

北 海 道 支 部 記 事

第1回役員會（昭.18. 3. 11.）

出席者： 井口支部長、高田商議員外 4 名、小川幹事長、板倉幹事外 3 名

報 告

1. 商議員及幹事異動

商議員退任	町田 利臣君	小松 悌治君
新任	岩崎 雄治君	牧之瀬秀清君
幹 事退任	石田 武雄君	新任 神戸 浩君

中 國 四 國 支 部 記 事

役員異動

評議員 退任 今泉佳三郎君、木村又治君、猿谷新太郎君、高木季雄君、千葉 男君、小野木次郎君、花桐逸策君、善如寺秀太郎君  
新任 西東慶治君、廣長良一君、豐田勝藏君、佐藤東次郎君、三宅秀太君、松下幹雄君、今村 清君、荒木 操君

日 本 工 學 會 記 事

第6回評議員會（昭 18. 3. 20.）

議 事

1. 社員總會提出議案
2. 第5回日本工學會大會豫算

そ の 他 記 事

土木學會誌第 29 卷第 4 號を發行成規の手續を了し會員に配布せり

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 會 員 (入 會)

株式會社大林組北京支店	小 津 利 一	宮 本 九 郎	3 級
株式會社清水組北京支店	高 村 廣 一	宮 田 益 雄	1
關西急行鐵道株式會社	大 戸 武 之	鈴 木 角 一 郎	2
		芝 谷 常 吉	

正 會 員 (入 會)

阿 部 治 夫 竹 内 孝 長 岡 未 光 望 月 一

准 會 員 (入 會)

池谷孝	品田清	右田勳	村松猛	神崎達	小鈴宮山岸	澤木鳥根本	正規島根正	義一正清也	大長新山馮	凌江保本理	武典外博	男彦治忠唐	加並丹阿山	藤木野賢正	七三郎勇次晴	郎三郎	小牧出大江	關國崎下崎	敏雅繁止	夫實之樹郎	重松北金時	川田條村任	穰正司圭連	弘郎祐男
-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	--------	-----	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------

學 生 會 員 (入 會)

逢奧川丹謝水池北清高藤小竹牧米角逢	澤山崎原宗野田波寺田野田原坂	幸二健一彦輔信平昇一線二吉國廣一可剛	夫郎次彦輔信平昇一線二吉國廣一可剛	伊加北陳永宮小久清津藤佐都松渡菊宇	賀納川英井北川留水田與久筑村邊田川	上滿清英恒文健一利開賢	季滿清俊夫毅司保郎夫誠開賢	明雄城俊夫雄毅司保郎夫誠開賢	石駝小津長森岡隈島戶細坂中松新山柳	原野崎尼下島部崎沼川本條本井本原	勉陽藏武三美弘也郎世充德洽助之錫	今澤卓達義達圭梅健恒文秀信重永	井義卓達義達圭梅健恒文秀信重永	猛雄也彌夫城次雄一保美雄之春和	上野川永園井本賀田川中平明方	和茂博孝思彰猛之介策治郎雄嶽雄	男茂博孝思彰猛之介策治郎雄嶽雄	岡川竹中福足龜郡鈴長小高山橫奧佐	田元村福足龜郡鈴長小高山橫奧佐	川元村福足龜郡鈴長小高山橫奧佐	賢千乙島立井道木谷寺橋山原々	清司多衛武彦浩夫郎五郎一辰浩久茂	司留乙武彦浩夫郎五郎一辰浩久茂	多留乙武彦浩夫郎五郎一辰浩久茂	留乙武彦浩夫郎五郎一辰浩久茂	乙武彦浩夫郎五郎一辰浩久茂	武彦浩夫郎五郎一辰浩久茂	彦浩夫郎五郎一辰浩久茂	浩夫郎五郎一辰浩久茂	夫郎五郎一辰浩久茂	郎五郎一辰浩久茂	五郎一辰浩久茂	郎一辰浩久茂	一辰浩久茂	辰浩久茂	浩久茂	久茂	茂
-------------------	----------------	--------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------	---------------	----------------	-------------------	------------------	------------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	------------------	-----------------	-----------------	----------------	------------------	-----------------	-----------------	----------------	---------------	--------------	-------------	------------	-----------	----------	---------	--------	-------	------	-----	----	---

正 會 員 (轉 裕)

大場吉次	久保寺昇	杉田文雄	伏見吉雄	松田久雄
------	------	------	------	------

土 木 學 會 々 員 數 (昭.18. 3. 22. 現在)

名譽會員	正會員	准會員	學生會員	特別會員	贊助會員	合 計
5	4 636	6 548	2 028	181	25	13 423

正會員 前會長井上秀二君は昭和 18 年 4 月 4 日逝去せられたり 本會は靈前に弔詞並に柩を呈し恭しく哀悼の意を表したり

正會員 尾上喜晴君、中村正夫君、橋本孝之君、引野通夫君、本田吉丸君、山田龜治君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

准會員 飯塚廣人君は昭和 17 年 10 月 15 日ガダルカナル島に於て戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准會員 中島 亮君の訃報に接す 本會は恭しく哀悼の意を表す

學生會員 杉山一郎君は昭和 17 年 12 月 22 日南方に於て戦死せられたり 本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

---

## 會 告

### 土木學會第 5 回年次學術講演會の論文募集

昭和 18 年 10 月 9 日より下記の如く名古屋市に於て第 5 回年次學術講演會が開催されますから多數會員の論文御提出を希望致します。

- 日 時: 第 1 日 昭和 18 年 10 月 9 日 (土曜日)  
午前 講演, 午後 講演, 夕 懇親會  
第 2 日 昭和 18 年 10 月 10 日 (日曜日)  
午前 講演, 午後 見學 (名古屋市内及附近)  
第 3 日 昭和 18 年 10 月 11 日 (月曜日) 以後見學旅行  
見學旅行の詳細は追て會告す。

講演會場: 名古屋高等工業學校内

#### 論文提出に關する注意

1. 論文提出の申出 論文御提出の方は昭和 18 年 6 月 15 日迄に其題目を名古屋高等工業學校内講演委員會宛に御申出のこと。
2. 論文要旨の提出 論文要旨は昭和 18 年 7 月 31 日迄に御提出のこと。要旨は字數 600 字以内のこと(土木學會誌原稿用紙 2 枚以内とし、圖面は縮小した時を考慮し本文中に含める)。

#### 講演に關する注意

3. 講演時間 1 論文に付 20 分以内とす。但し超過する場合は論文要旨御提出の際御申出のこと。
4. 圖面及表 講演の際使用の圖面、寫眞及表等にして豫め當方に於ての整理を希望せらるゝ方は提出順序を明記して昭和 18 年 9 月 15 日迄に名古屋高等工業學校内講演委員會宛御送附ありたし。但し圖面及表の大きさは大體 80 ㎝×105 ㎝程度とされたい。
5. 其の他 映寫設備等御必要の向は論文要旨御提出の際御忘れなく申出ありたし。
6. 本講演に關する事務は總て下記の處にて取扱ふ。

名古屋市昭和區 名古屋高等工業學校土木工學科教室内

土木學會第 5 回年次學術講演會講演委員會

## 圖書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の圖書及雜誌は本會圖書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから、御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時 自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時  
自1月1日至7月20日

但し 日曜及日祭は休み

---

## 圖書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の圖書雜誌を整理し、圖書室を設備致してあります。又本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介致して居りますから、會員の著書其の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

---

## 徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 寸法徑 14 mm
2. 品種 洋白地金文字浮出し
3. 費實 金 85 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 17 錢を要す)



(實物大)



故 前會長 工學士 井 上 秀 二 君

## 故 前會長 井上秀二君 略歴

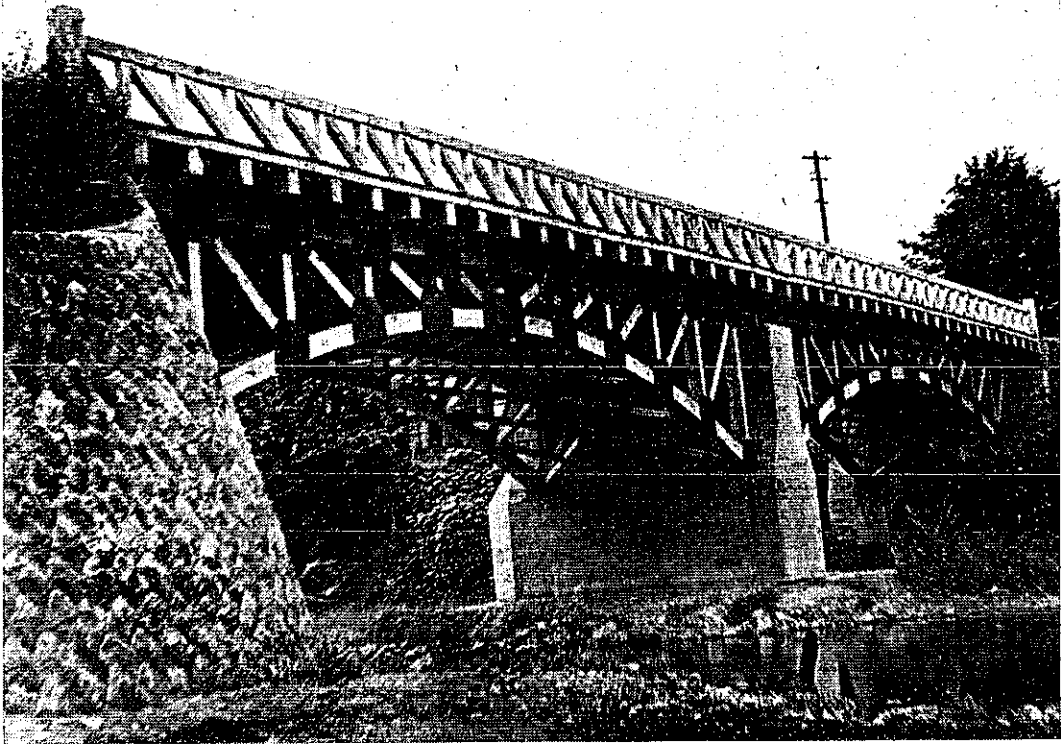
井上秀二君は仙臺市に生る。明治三十三年七月京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業直ちに京都帝國大學理工科大學助教授に任ぜらる。三十五年九月京都市土木課長を命ぜられ、四十年五月水道事業視察の爲め歐米各國及び埃及へ出張、四十一年一月歸朝、同年同月京都市臨時事業部技術長兼水道課長を命ぜらる。大正八年十月猪苗代水力電氣株式會社土木課長を命ぜられ、十一年二月土木學會主事に就任せらる。十二年四月東京電燈株式會社理事に任ぜられ建設部副部長を命ぜらる。昭和二年二月土木學會副會長に選任せられ、同年四月水道研究會理事長に選任せらる。九年十月水道協會理事に選任せられ、十一年二月土木學會々長に選任せらる。

君は京都市水道課長或は横濱市水道局技術長又は猪苗代水力電氣株式會社土木課長或は東京電燈株式會社建設部副部長として我が國水道事業及び水力發電事業の發達に貢獻する所甚だ多く、又土木學會々長、水道研究會理事長、水道協會理事、三菱礦業株式會社、函館水道、富山電氣、名古屋市等の顧問として我が國土木界の爲め盡瘁せられ其の功績赫々たり。

昭和十八年三月疾を得て遂に起たず、昭和十八年四月四日澁谷區原宿の邸に薨ず、享年六十有八。



## 竣功せる野中橋



### 野中橋工事概要

位 置： 岩手縣二戸郡小島谷村字野中（國道四號路線）

橋格及型式： 一等橋，木造構腹拱橋

着 手： 昭和 16 年 8 月 25 日

竣 功： 昭和 17 年 8 月 30 日

支間及橋長： 22.0 m-2 連，44.0 m

有效幅員： 6.50 m

有效面積： 286.0 m<sup>2</sup>

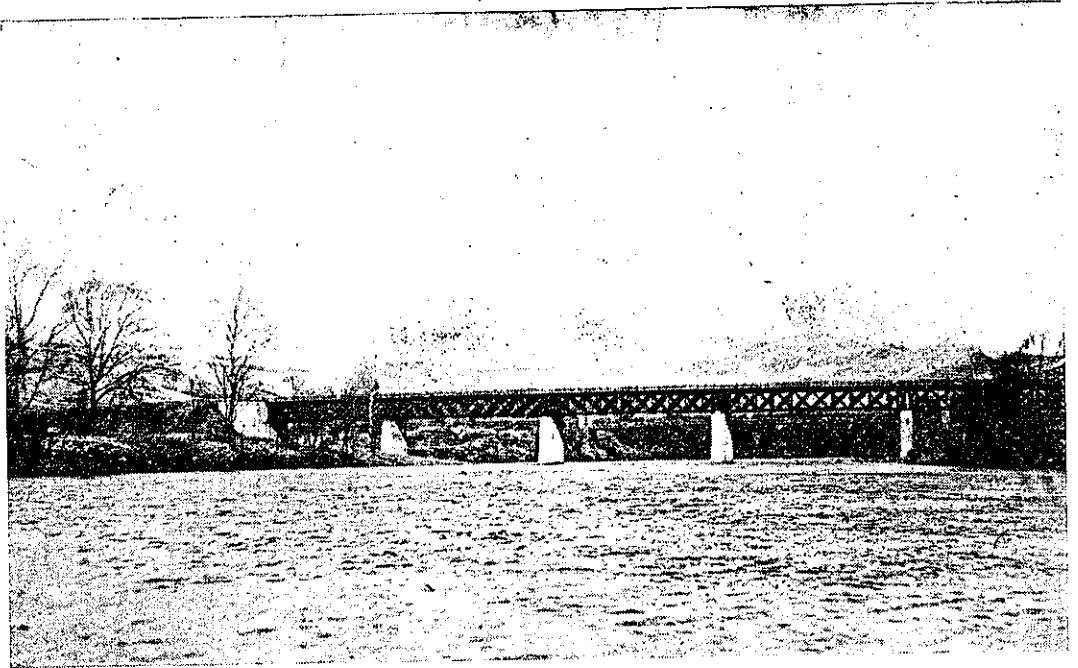
橋脚 1 基，橋臺 2 基

主要材料： セメント 80 t，鋼材 11 818 kg，木材 153 m<sup>3</sup>

工 費： 42 082 圓（橋面 1 m<sup>2</sup> 當り 122 圓）

施 工： 岩手縣二戸地方事務所土木課

## 赤 平 橋 全 景



### 赤平橋工事概要

架設地點：北海道空知郡赤平村赤平市街地  
路線名：地方費道札幌根室線  
河川名：石狩川支流空知川  
支間：140 m (30 m-3 連, 25 m-2 連)  
橋長：141.20 m  
有効幅員：4.50 m  
型式：複ワーレン型木構桁橋 (格点接合は輪形デュベル)  
荷重：第 3 種荷重  
起工月日：昭和 15 年 6 月 3 日 (上部構造に対しては同年 12 月末より材料準備)  
竣工月日：昭和 17 年 3 月 31 日  
総工費：268 544 圓, 上部工費 76 912 圓, 平米當り 121 圓